

# 2009年度新入生オリエンテーション合宿の実践 —高専における初年次教育の一環として—

望月 肇\*・藤井清治\*・猪川優子\*・山尾徳雄\*・濱中俊一\*・勘久保広一\*\*  
ダワァ ガンバット\*\*・長井弘志\*\*・葛目幸一\*\*\*・野々山和宏\*\*\*\*  
中村真澄\*\*\*\*・若松純子\*\*\*\*\*・阿部智美\*\*\*\*\*

## “Orientation Camp 2009” Project as a Part of First-Year Experience at College of Technology (Kosen)

Hajime MOCHIZUKI\*, Seiji FUJII\*, Yuko IKAWA\*, Tokuo YAMAO\*  
Shunichi HAMANAKA\*, Koichi KANKUBO\*\*, Ganbat DAVAA\*\*  
Hiroyuki NAGAI\*\*, Koichi KUZUME\*\*\*, Kazuhiro NONOYAMA\*\*\*\*  
Masumi NAKAMURA\*\*\*\*, Junko WAKAMATSU\*\*\*\*\*  
and Tomomi ABE\*\*\*\*\*

### Abstract

Recently, some of the first-year students in our college seemed not to have enough study experience from their junior high-school years. Therefore, “first-year experience at college of technology (Kosen)” is important in order to support a smooth transition from secondary education to higher education. We designed “Orientation Camp 2009” project as a part of first-year experience with our teachers’ support and cooperation. Participants in the orientation camp were 89 new students in our college. 12 staffs that consist of 11 teachers and 1 nurse led them to an accommodation for living in groups in Omishima, Ehime on April 10th and 11th, 2009. We carried out the following activities: (1) orientation for new college life, (2) outdoor curry cooking, (3) practice singing national anthem and college song, (4) orienteering in a small group, (5) home room in each class. According to the post questionnaire answered by our college’s first-year students, 63.7% of the students had the positive impression towards the orientation camp. 92.1% of the students felt that the camp helped them to make new friends. However, their positive impression varied with each activity. In the future, we need to design more attractive activities that will satisfy all the new students.

**Keywords :** first-year experience at college of technology, a smooth transition from secondary education to higher education, orientation camp, teachers' support and cooperation

**キーワード :** 高等専門学校における初年次教育, 中等教育から高等教育への円滑な移行, オリエンテーション合宿, 教員の支援と協力

### 1. はじめに

#### 1. 1 注目される初年次教育

近年, 大学, 短期大学 (以下, 短大) において中等教育から高等教育への円滑な移行を支援する「初

年次教育」が注目を集めている。学力, 学習目的, 学習習慣の多様な学生が大学, 短大に進学する一方で, 卒業時の質の保証が求められるようになったことがその背景にあり, 入学した学生を高等教育に適応させ, 中退などの挫折を防ぎ, いかに成功へ導く

\*総合教育科           \*\*電子機械工学科  
\*\*\*情報工学科       \*\*\*\*商船学科  
\*\*\*\*\*学生支援係 (看護師)  
\*\*\*\*\*芸術科 (音楽)

かが喫緊の課題となっている。

教員から一方的に教えられる受動的な学習が多い高等学校(以下、高校)までとは異なり、大学、短大では自主的、能動的な学習が求められる。学習スタイルの急激な変化に馴染めず、大学、短大において入学直後に挫折する学生が増加している。

## 1. 2 初年次教育の定義

Upcraft, Gardner, & Borefoot (2005) は、初年次教育 (First-Year Experience) とは「一般的に高校から大学への学習面、生活面を含めての円滑な移行を目指すための教育」と定義しており、具体的には、(1)スタディ・スキル (一般的なレポート、論文の書き方や文献の探し方、コンピューター・リテラシー) の教育、(2)進路への明確な動機づけを含むチューデント・スキル (大学生に求められる一般常識や態度) の教育、そして、(3)専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育、の三つの側面で構成される、としている。

また、基礎学力不足の学生を対象に、高校までに学習しておくべき内容を高等教育機関において補習する「リメディアル教育」は、初年次教育と密接な関連があり、初年次教育の一部として位置付けられることもある。

## 1. 3 初年次教育の歴史

初年次教育は1970年代後半から80年代前半にかけて、アメリカ合衆国の多くの高等教育機関で導入され、学生の中退率抑制や学生の成功に有効な教育プログラムであることが評価されている。日本においては、2007年12月に初年次教育学会が設立されるなど、この数年間で初年次教育は急速に発展している。「基礎演習」、「学士課程教育」、「学習成果・学習効果測定」、「授業デザイン」、「高大接続・入学前教育」、「協同学習・グループワーク」などをキーワードに、様々な大学、短大において、学力や学習習慣の多様化した18歳以降の入学生を高等教育に順応させ、中退などの挫折を防ぎ、成功へと導く実践例が数多く報告されている (初年次教育学会, 2009)。

## 1. 4 高等専門学校における初年次教育

高等専門学校 (以下、高専) は5年制の高等教育機関であるため、大学や短大に比べて3歳若い、中学校を卒業したばかりの高校1年生と同じ15歳以降の入学生を高等教育に順応させる必要がある。

高専は、高校でもなく大学や短大でもない、高専独自の教育システムを持つ。例えば、高校、高専ともに毎週1時間のホームルームについては学級担任が担当するが、毎朝と放課後のショート・ホームルームは高専には存在しない。また、各教員は独立し

た研究室で教育や研究を行うため、卒業研究等の指導は行いやすく、この点で大学や短大に似た教育システムを持つ。また、高専では高校1年生と同じ15歳以降の入学生が高等教育を受けるため、大学、短大における教育よりも、学生に対してよりきめ細かな指導が求められる。しかし、高専には職員室が存在しないため、高校と比較して教員間の連携は取りにくい傾向にある。例えば、高校においては毎朝職員室で行われる教員朝礼が高専には存在せず、学生の様子などの情報を交換する場合、わざわざ担当教員の研究室に向かうか、メールで連絡をすることになる。

このような独特の教育システムを持つ「高専」において、15歳以降の入学生がスムーズに高専の教育課程に順応するための「初年次教育」を充実させる必要がある。しかしながら、「高専における初年次教育」の実践例は、まだ少ないのが現状である。

## 1. 5 本校における初年次教育

本校においては「課題学習 (創造性教育)」の実践が、2005年度、2006年度は商船学科1年生を対象に (堀口、濱中、上江、藤井清、坂内、石橋, 2008)、2007年度は電子機械工学科1年生を対象に (伊藤、濱中、山尾、上江、藤井清、大石、田頭、園部, 2008)、2008年度は情報工学科1年生を対象に行われた (望月、濱中, 2009)。小グループの学生による「計画・実行・まとめ・報告」という一連の学習活動を、複数の教員が連携して指導することにより、自ら考えて行動する能力を育成するこの教育実践は、アクティブ・ラーニング (Active Learning) という教育方法として、本校における初年次教育の先駆けとなっている。

また、2008年6月16日、17日の2日間、本校にアメリカ合衆国コロラド州ベア・クリークハイスクールより高校生36名、引率教員5名を受け入れ、「初年次学生の国際的視野を育むアクティブ・ラーニング」として、英語、芸術科書道の正規授業において、アメリカ人高校生と本校1年生との交流を行った (望月、坂内、野口、上江, 2009)。

ここでは、アクティブ・ラーニングを「教員が与える正解を学生が受け入れるだけの、従来型の一方的な講義形式に見られる受け身の学習ではなく、グループワークなどで学生が自ら積極的に授業に参加し、正解を探す能動的学習」と定義する (関西国際大学, 2009)。

## 1. 6 本稿のねらい

本稿では、初年次教育の重要性と、本校の教育方針にも掲げられている「高い倫理観をもった人材の育成」という観点に基づいて企画した、本校1年生

全員との2日間に渡る、「2009(平成21)年度新入生オリエンテーション合宿」の実践について報告する。

## 2. 本教育実践の目的

本教育実践は、本校の3つの教育方針の中の1つである「(3) 日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成。」(弓削商船高等専門学校, 2009)に基づいて計画されている。

また、先述した初年次教育の重要性を踏まえ、従来の一方的な講義形式だけでなく、協同学習という教育方法を取り入れ、複数の教員が連携しながら、小グループの初年次学生に対して「高い倫理観をもった人材の育成」を目指しつつ、「団体生活を通して、団体秩序を守り、寛容な心で同級生との親睦を図るとともに、学生生活及び学生としての心得を身につけること」を目的としている。

ここでは、協同学習を「学習仲間と共有した学習目標を達成するために、小グループやペアと一緒に学ぶこと、言い換えれば、小グループの教育的使用であり、学生が自分自身の学びと仲間の学びを最大限にするために共に学び合う学習法」と定義する(安永, 2009)。

## 3. 本教育実践の実施までの経緯

2009年3月11日(水)に、2009年4月以降の勘久保新学生主事、新学生主事補(葛日、ガンバット、野々山、猪川、望月)による協議の結果、新入生オリエンテーション合宿を大三島少年自然の家(愛媛県今治市大三島肥海)にて、2009年4月10日(金)、11日(土)に1泊2日の日程で行うことを決定した。

その後、3月18日(水)16:00～、また3月30日(月)13:30～、いずれも本校専攻科棟1階地域協同推進センター会議室において、新学生主事、新学生主事補による会議を行い、合宿の引率は新学生主事、新学生主事補、新1年生学級担任、新1年生担任支援教員、新寮務主事補ならびに看護師が行うこと、その他オリエンテーション合宿の詳細な日程、実施要領を決定し、合宿のしおり(実施要項、注意事項、日程表、参加者名簿、班別名簿、部屋割表、掃除当番表、校歌・君が代楽譜、メモ)の作成に取りかかった。3月31日(火)には、新学生主事、新学生主事補合わせて4名が合宿先の大三島少年自然の家へ下見と打ち合わせに行った。4月6日(月)に引率教員が集まり、最終的な打ち合わせを行った。

## 4. 本教育実践の概要

本教育実践に関する学生の参加者は、本校新1年生89名、引率教職員は12名である。参加者の詳細を表1に示す。

表1 新入生オリエンテーション合宿参加者

① 学 生		
情報工学科	新1年生	33名 (14名)
電子機械工学科	新1年生	29名 (1名)
商船学科	新1年生	27名 (2名)
		計89名 (20名)
※ ( ) は、女子の人数を示す。		
② 教職員		
新学生主事	勘久保	
新教務主事	濱中 (10日のみ)	
新学生主事補	野々山	
新学生主事補	ガンバット (11日のみ)	
新寮務主事補	長井	
1年支援長	山尾	
1年支援教員	中村真	
看護師	若松	
芸術科(音楽)担当	阿部 (10日のみ)	
新情報工学科1年担任、		
新学生主事補	葛日	
新電子機械工学科1年担任、		
新寮務主事補	藤井清	
新商船学科1年担任、		
新学生主事補	望月	
		計12名

本教育実践は新入生オリエンテーション合宿として、2009年4月10日(金)、4月11日(土)にわたり、一泊二日で大三島少年自然の家(愛媛県今治市大三島肥海)において行われた。

研修内容として、集団行動訓練、学生生活と教務関係の説明、歌の練習(国歌、校歌)、クラス別ホームルーム、清掃活動、また協同学習(5～6名の小グループによる活動)として、飯盒炊爨、オリエンテーリングが行われた。各教育実践の詳細は次章で述べる。

## 5. 各教育実践の内容

### 5.1 4月10日(金)大三島少年自然の家入所式

午前10時30分に、一行は貸切バスで大三島少年自然の家に着いた。自然の家の広場において、入所式を行った。商船学科1年越智学生による学生代表挨拶に続いて、勘久保学生主事による諸注意と引率



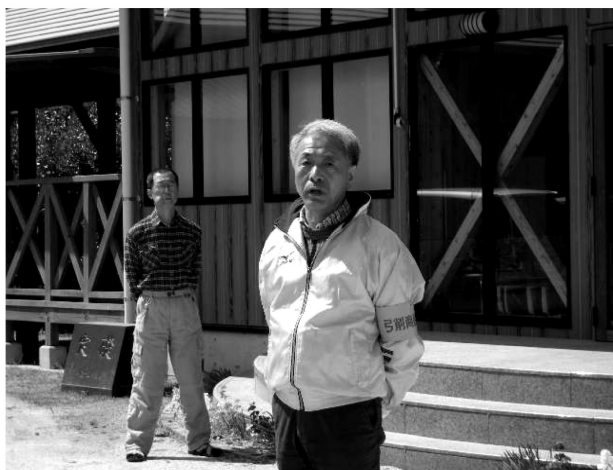


図1 勘久保学生主事による諸注意



図3 阿部教員による校歌指導



図2 真剣に説明を聞く新入生



図4 校歌の練習に励む新入生

教員紹介、自然の家所長による挨拶と施設利用説明が行われた(図1)。

新入生はやや緊張した面持ちで、真剣に説明に耳を傾けていた(図2)。

## 5. 2 4月10日(金)全体集会①

午前11時に第一研修室において、全体集会①が行われた。

まずは教員の笛の合図で素早く班ごとに整列集合する集団行動訓練を行った。この時間は、新入生は5～6名の班(商船学科男子は5班、電子機械工学科男子は5班、情報工学科男子は5班、女子は3クラス混合で3班、計17班)に分かれて行動した。各班の班長は点呼の際、「第2班、総員5名、現在員5名、異状ありません。」と教員に報告することとした。新入生は何度も練習を重ね、目標の時間内に整列集合できるようになった。

続いて勘久保学生主事、野々山学生主事補により、学生便覧を用いて、学則、学生準則についての説明、

学生生活全般についての説明が行われた。

次に葛目学生主事補兼情報工学科1年担任より、本合宿における各班の係の役割分担(班長、レクリエーション係、生活係、シーツ係、食事係)について説明があった。

## 5. 3 4月10日(金)全体集会②

昼食後の午後1時より第一研修室において、全体集会②が行われた。

最初に濱中教務主事より、学生便覧と配布資料「高専生としての心構え」を用いて、高専における授業の受け方、定期試験、単位履修や単位習得方法についての説明が約50分行われた。

10分間の休憩を挟んで、音楽担当阿部教員による国歌、校歌の練習が約90分行われた(図3)。新入生は歌詞の意味の説明を受け、何度も懸命に練習を重ね、練習の最後には、今回初めて習った校歌を、3番まで歌詞を暗記して歌えるようになった(図4)。

#### 5. 4 4月10日(金) 飯盒炊爨(協同学習①)

午後3時30分より炊爨場において、飯盒炊爨が行われた。新入生は教員による笛の合図で、午前中に練習した5～6名の17班にすぐに分かれ、1～2班に1名ずつ教員が指導する中、薪に火をおこし、失敗を繰り返しながら、なんとかカレーライスを作り上げることができた。

この飯盒炊爨は今回の合宿の中で協同学習①に位置付けられており、新入生は仲間とカレーライスを作るという共通の目標を達成するために、小グループで助け合いながら、互いの親睦を深めることができた(図5)。



図5 仲間と楽しい食事のひとつ

#### 5. 5 4月10日(金)オリエンテーリング準備(協同学習②)

午後7時より第一研修室において、翌日行われるオリエンテーリングの説明と準備が行われた。新入生は17班に分かれて行動し、班員同士で相談しながら配布された地図に書き込みをして、翌日のオリエンテーリングのルートを決めていった。班のメンバー同士がよく話し合っ親睦を深めながら、翌日の準備ができたようである。

#### 5. 6 4月11日(土)オリエンテーリング(協同学習③)

4月11日(土)は好天に恵まれ、屋外でのオリエンテーリング日和となった。午前6時の起床後、ラジオ体操、朝食、清掃と慌ただしい日課をこなし、なんとか予定通りにオリエンテーリングを午前9時に開始できた。

新入生はグループごとに、昨夜相談しながらルートを書き込んだ地図を片手に行動した。引率教員は各チェックポイントに1名ずつ立ち、学生グループが道に迷わないように誘導した。

最初からルートを逆行するグループ、道に迷うグ

ープもあったが、17班全てのグループのメンバーがお互い助け合いながら目標の鏡山頂上まで登り、グループごとに記念撮影をした(図6)。

このオリエンテーリングは今回の合宿の中で協同学習③に位置付けられており、新入生は限られた時間内に目標の地点を通過して質問に答えるという目標を達成するために、グループで助け合いながら、互いの親睦を深めることができたようである。



図6 鏡山頂上にて記念撮影

#### 5. 7 4月11日(土)クラス別HR

オリエンテーリングの後、昼食を挟んで午後0時30分よりクラス別HRを行った。各担任よりオリエンテーション合宿の講評、今後の学生生活についての注意などの講話があり、引き続き学生による自己紹介が行われた。

最後に「オリエンテーション合宿に参加して」と題し、作文の課題に取り組んだ。どの学生も熱心に作文に取り組み、このオリエンテーション合宿での様々な協同学習を通じて、新しいクラスメートと互いに親睦を深めることができ、高専での新しい学校生活への不安が解消されたようである。

### 6. 事後アンケートの集計と考察

本教育実践の教育的効果の検証と、今後のより良いオリエンテーション合宿を目指して、合宿2日目のクラス別HRの最後に、新入生全員と引率教員全員を対象に、無記名方式でアンケートを実施した。

#### 6. 1 新入生による事後アンケート結果

まず、新入生全員を対象とした事後アンケート結果(8項目)と、新入生の自由記述の感想について考察する。

図7に新入生による事後アンケートの結果を示す。



項目1「今回の合宿に参加してよかったですか?」に関して、新入生の63.7%が肯定的な感想を持っていることから、今回の新入生オリエンテーション合宿は、一応の成功を収めたと考えられる。しかし、14.7%の新入生が否定的な感想を持っていることから、集団生活に馴染みにくい学生への対応や、より多くの新入生が満足する活動の企画などが今後の課題となった。

項目2「今回の合宿は友達づくりに役立ちましたか?」に関して、92.1%という高い割合の新入生が肯定的な感想を持ったことは、「同級生との親睦を

図る」という本教育実践の目的はほぼ達成されたとと言える。わずかではあるが、3.4%の学生が否定的な感想を持っていることから、学級内で孤立した学生が出ないように、今後注意深く見守る必要がある。

項目3~7に関して、概ね6割以上の新入生が肯定的な感想を持った中で、項目7「オリエンテーリング(山登りなど)は楽しかったですか?」に関してのみ、新入生の肯定的な感想は52.2%にとどまった。これは、自由記述欄に「山登りがしんどかった、疲れた」という感想を書いた新入生が多くいたことから、オリエンテーリングの活動に対して不満があったというよりもむしろ、体力的に疲れたため、否定的な感想を持つ学生の割合がやや高まったと推測できる。

項目8「合宿に参加して、来週からの学校生活を楽しく過ごせそうですか?」に関して、肯定的な感想を持つ新入生が76.1%と高いことから、「団体生活を通して、団体秩序を守り、寛容な心で同級生との親睦を図るとともに、学生生活及び学生としての心得を身につける」という本教育実践の目的はほぼ達成できたと考えられる。ただ少数ながら、不安に思う新入生が2.3%いることを考慮し、今後1年生の指導を行う必要がある。

最後に、新入生の自由記述による感想の抜粋を表2に示す。「計画性がなかったと思う」「話が長すぎる」など率直な感想もあった。予定の時間内に活動が終了できず、活動の予定を変更したことがあったが、次節において引率教員による自由記述意見とあわせて考察する。

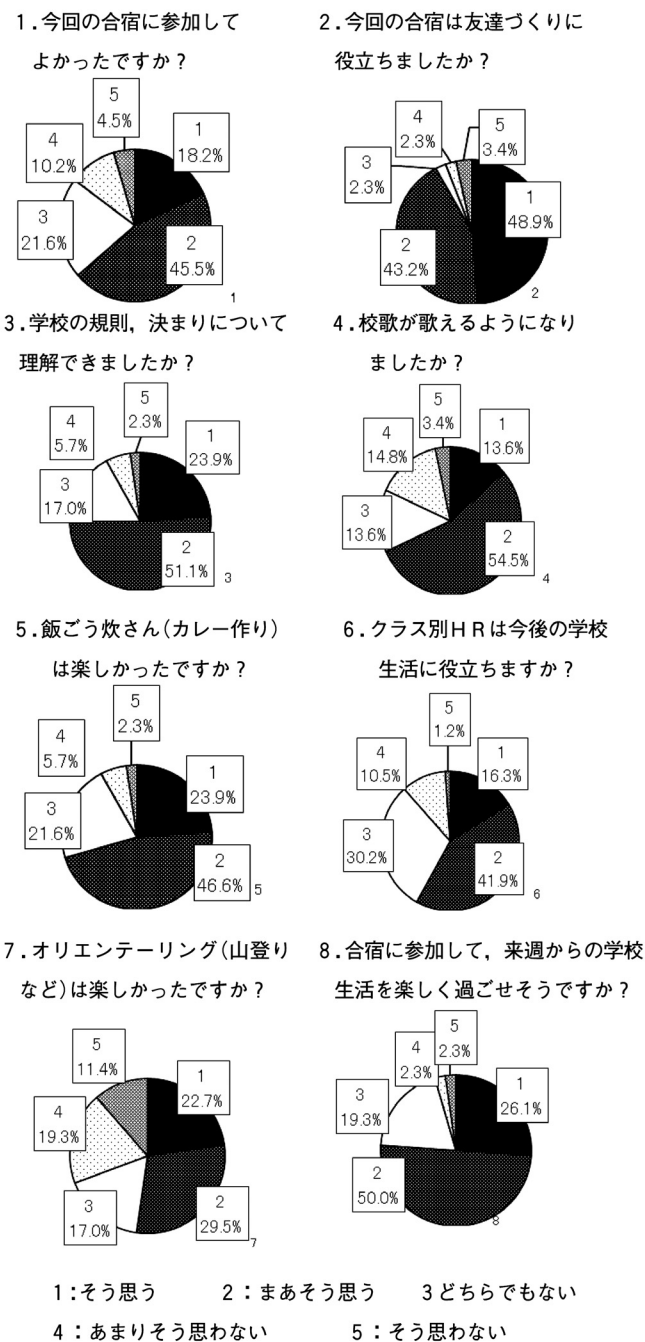


図7 新入生による事後アンケート結果

表2 新入生による自由記述感想の抜粋

- ・最初は友達ができるか不安だったが、だんだん友達が増えて楽しいオリエンテーション合宿になった。
- ・友達と行動し、改めて集団行動の大切さを学んだ。
- ・これからの5年間を楽しく過ごせると思います。
- ・知らない人と一緒に集団行動をするのは最初は大変だったが、すぐに友達できてよかった。
- ・山登りは疲れたが、多くの友達できてよかった。
- ・山登りがしんどかった。
- ・計画性がなかったと思う。
- ・話が長すぎる。

6. 2 引率教員による事後アンケート結果

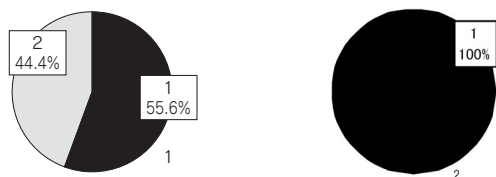
続いて、引率教員全員を対象に無記名方式で行った事後アンケート結果(4項目)と、自由記述の意見、感想について考察する。

引率教員による事後アンケートの結果(図8)から

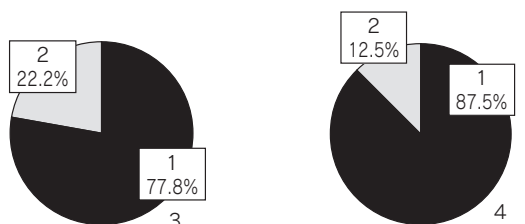
分かるように、この新入生オリエンテーション合宿を実施することは、新入生の新たな友達づくりに役立ち、また団体秩序を守る大切さを学ぶことができ、新たな学校生活に慣れるのに役立つ、と全ての引率教員が感じていることが分かる。

引率教員の自由記述による意見の抜粋を表3に示す。2日目のクラス別HRを予定通りに始められず、十分な時間がとれなかった。これは直前のオリエンティング、とりわけ山登りに予想以上に時間がかかったことが原因である。計画性がなかったというよりもむしろ、だらだらと山登りから下山する学生に対して、時間内に行動するように指導が徹底できなかったことが、教員側として反省すべき点である。いかに手際よく、予定通りに活動できるように指導するかが、今後の課題となった。

1. 今回の合宿を実施してよかったと思いますか？ 2. この合宿は学生の友達づくりに役立ったと思いますか？



3. この合宿は学生の団体秩序を守ることに役立つと思いますか？ 4. この合宿は学生が早く学校生活に慣れるのに役立つと思いますか？



1: そう思う 2: まあそう思う 3: どちらでもない  
4: あまりそう思わない 5: そう思わない

図8 引率教員による事後アンケート結果

表3 引率教員による自由記述意見の抜粋

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員のチームワークは素晴らしいものがあつた。</li> <li>・新入生オリエンテーション合宿を実施することはとても大事なことだと思う。</li> <li>・クラス別HRが予定通りにできるよう、時間の調整が今後の課題。</li> <li>・食事準備の手順をよく説明して、もう少し短時間でカレーライス作りができるようにすればよかった。</li> <li>・集団行動訓練は、説明程度でもよかったと思う。</li> </ul>
---

## 7. まとめと今後の課題, 展望

事後アンケートの結果からも明らかのように、多くの新入生と全ての引率教員が、新入生オリエンテーション合宿を肯定的に捉えている。また、本教育実践は新入生にとって新たな学校生活に慣れるのに役立ち、新しい友達と親睦を深める絶好の機会であり、さらに団体秩序を守る大切さを学ぶことができるという点からも、今後も改良を重ねながら、継続して実施していきたい。

今後の課題として、本校ならびに他高専のより多くの教職員から、初年次教育に対する理解と協力を得ながら、さらに充実した「高専での初年次教育」の実践を蓄積することが求められる。そのために、他大学等の先行事例を参考にしながら、さらに充実した内容の教育実践を考案し、教育効果の測定方法についても検討する必要がある。将来的には、学校全体で初年次学生への導入教育ができるように、高専の正規教育課程に初年次教育を盛り込むなどの体制づくりを行い、組織的な取り組みとして発展させたいと考えている。

## 参考文献

- 1) 伊藤武志, 濱中俊一, 山尾徳雄, 上江憲治, 藤井清治, 大石健司, 田頭章司, 園部元康 (2008) 「初年次における課題学習を活用した創造性教育の実践」『平成20年度機構主催教育教員研究会論文集』323-326.
- 2) 関西国際大学 (2009) 『関西国際大学について—アクティブラーニング—』2009年6月17日検索. <http://www.kuins.ac.jp/kuinsHP/about/education/active.html>
- 3) 濱名篤, 川嶋太津夫 (編) (2006) 『初年次教育歴史・理論・実践と世界の動向』丸善.
- 4) 堀口正之, 濱中俊一, 上江憲治, 藤井清治, 坂内宏行, 石橋洋二 (2008) 「初年次学生の多様化する学習経験を改善するための教員の連携と実践」『論文集「高専教育」』31: 759-764.
- 5) M. Lee Upcraft, John N. Gardner, Betsy O. Barefoot (2005) *Challenging and Supporting the First-Year Student*, WILEY.
- 6) 望月肇, 坂内宏行, 野口隆, 上江憲治 (2009) 「初年次学生の国際的視野を育むアクティブ・ラーニング—アメリカ人高校生との交流プログラム実践報告—」『弓削商船高等専門学校紀要』31:139-146.
- 7) 望月肇, 濱中俊一 (2009) 「国立高等専門学校における初年次教育—弓削商船高等専門学校の事例—」『初年次教育学会誌』2-1: 80-87.

- 8) 初年次教育学会 (2007) 「設立趣意書」 2009年6月17日検索.  
<http://www.soc.nii.ac.jp/jafye/shuisho/index.html>
- 9) 山田礼子監訳 (2007) 『初年次教育ハンドブック』 丸善.
- 10) 安永悟 (2009) 「協同学習の考え方とすすめ方」 『初年次教育学会 第2回大会 発表要旨集』 11.
- 11) 弓削商船高等専門学校 (2009) 「本校の教育方針」 2009年6月17日検索. <http://www.yuge.ac.jp/>

## 資料 2009 (平成21) 年度 新入生オリエンテーション合宿 日程表

2009年4月10日 金曜日			
時間	日課・研修内容	場所等	担当教員
8:10	学生寮出発 (寮生)	学生寮前	藤井, 望月
8:45	弓削港発 (青丸)	弓削港	
9:00	因島土生 (長崎) 港着	土生港	
9:20	集合, 点呼	土生港バス停	学級担任
9:30	土生港発 (貸切バス)		
10:30	大三島少年自然の家着 入所式 1) 学生代表挨拶 2) 学生主事諸注意 3) 引率教員紹介 4) 入所説明 (自然の家所長)	自然の家 広場	司会: 葛目 全引率教員
11:00	全体集会① 1) 集団行動訓練 2) 学生生活について 3) 各係分担説明	第一研修室	学生主事・ 学生主事補
12:00	昼食準備	食堂	食堂担当
12:15	昼食	食堂	食堂担当
13:00	全体集会② 1) 教務説明 (~13:50) 2) 国歌・校歌練習 (90分)	第一研修室	司会: 藤井清 教務主事 阿部 (音楽)
15:30	飯盒炊爨 (協同学習①) カレーライスづくり (グループに分かれて)	炊爨場	全引率教員
17:00	夕食		
18:00	後片付け		
18:30	シーツ受け取り	シーツ受渡場	学級担任
19:00	オリエンテーション準備 (協同学習②) 1) 説明 2) グループ毎に地図作成		学生主事・ 学生主事補
20:10	入浴	浴室	
21:20	就寝準備	宿泊棟	学級担任他
22:00	消灯・就寝	宿泊棟	学級担任他

2009年4月11日 土曜日			
時間	日課・研修内容	場所等	担当教員
6:00	起床・洗面		
6:30	朝のラジオ体操	自然の家 広場	全引率教員
7:00	朝食	食堂	食堂担当
8:00	清掃活動 シーツ返却	班ごとに 割当ての場所	全引率教員
9:00	オリエンテーション (協同学習③) 雨天時 クラス別HR	オリエンテー リングコース	全引率教員
11:30	昼食 (弁当)	自然の家 広場	
12:30	クラス別HR 1) 担任講話 2) 学生自己紹介 3) 作文 (合宿に参加して) 4) アンケート記入	S: 食堂 M: 第一研修室 I: 第二研修室	学級担任
14:00	退所式 1) 自然の家所長講評 2) 学生代表挨拶 3) 学生主事講評	第一研修室	司会: 望月 全引率教員
14:20	バス乗車 (貸切バス)		
15:20	因島土生 (長崎) 港着 解散		
	集団帰寮 (寮生)		藤井, 望月

S: 商船学科, M: 電子機械工学科, I: 情報工学科